

## 福井県衛生環境研究センター活動報告 概要

発表演題名	大陸から飛来する微小粒子状物質について
学会名	第 39 回北陸公衆衛生学会
発表者名	山田克則・泉 宏導・酒井忠彰・谷口佳文
開催場所	福井市（アオッサ）
開催日時	平成 23 年 1 月 14 日（月）
発表内容	<p>目的</p> <p>呼吸器系や循環器系への健康影響が懸念され、平成 21 年に環境基準が設定された大気中の微小粒子状物質（PM2.5）について、県内の状況を把握し、常時監視体制の整備や発生源対策に役立てるため、22 年度から実態調査を開始した。</p> <p>方法</p> <p>調査は自動測定機 2 台により、6 地点（大気常時監視測定局）で行った。うち 1 地点（福井局）は通年測定を行い、他の 5 地点は測定機を移設しながら調査した。</p> <p>結果・考察</p> <p>福井局において 22 年度に日平均濃度が環境基準の <math>35\mu\text{g}/\text{m}^3</math> を超過した日数は計 18 日間で、特に高濃度（<math>50\mu\text{g}/\text{m}^3</math> 超過）になったのは、5 月 21 日、11 月 13 日、2 月 5 日の計 3 日間であった。</p> <p>このうち、5 月と 11 月の事例については、福井地方気象台において黄砂を観測していることから、黄砂に伴って高濃度の PM2.5 が飛来したものと判断される。</p> <p>2 月の事例では、気象台において黄砂は観測していないが、「煙霧」や「もや」を観測している。また、福井、敦賀の 2 地点で同レベルの高濃度を観測しており、広域的な現象であったことが推定される。</p> <p>報道（23.2.10 NHK）によれば、同時期に九州から近畿の広い範囲で「もや」が観測され、国立環境研究所で調べたところ、「もや」の原因は硫酸塩を含む有害な微粒子で、中国南部の工場や発電所から排出されたものが飛来したとみられるとのことであった。</p> <p>確認のため、2 月 5 日に福井県に飛来した大気の後方流跡線を調べたところ、大陸方面からほぼ直線的に東方向に移流して到達していることが確認された。</p> <p>以上から、5、11、2 月の事例とも高濃度の微小粒子状物質が大陸から飛来したものと考えられる。</p>